

清流ニューズ

発行所 八王子市子安町 1-22-25
清流寺
清流ニューズ編集室
電話 (042) 646-0287 (代)
FAX (042) 644-1164

平成二十五年 度 総 祈 願
日序上人御十七回忌報恩御奉公成就
教化必成教務員増加報恩御有志目標達成完納成就
改修成就之御願
羽村別院 助行運動推進
佛立菩薩増加 法行相續促進
役中後継者養成

高祖大士龍口御法難記念日

九月十一日 特別口唱会

教化必成のため熱禱を捧げよう!

文永八年(一二七一年)の夏、関東地方は大早魃となり、人々は困りはてました。鎌倉幕府は、極楽寺の良観房忍性等に雨乞いの祈願を命じました。効果が顕れません。のみならず、日照りは続く一方です。これに対してお祖師様日蓮聖人は、いくら邪法で祈願しても得益が頭れるはずはなく、正法である、法華経によらなければならぬと幕府と、他宗僧侶等を厳しく折伏されました。

幕府はこの訴状を取り上げ、お祖師様を罪人扱いにし、龍の口の刑場で処刑を企てたのです。九月十二日、幕府によって捕らえられたお祖師様は、龍の口の刑場に連行、いわゆる「頸の座」に据えられたお祖師様日蓮聖人は音吐朗々と南無南無と唱題されていきました。首斬り役人が刀を振り上げたその瞬間、江の島の方角から丸い玉のような光り物が飛んできて、首斬り役人の警護の刀は三つに折れ役人どもは目がくらみ、恐れおののきひれ

幕府に訴状を提出したのが良観房を先頭とする他宗の僧侶

だつたのです。九月十二日、幕府によって捕らえられたお祖師様は、龍の口の刑場に連行、いわゆる「頸の座」に据えられたお祖師様日蓮聖人は音吐朗々と南無南無と唱題されていきました。首斬り役人が刀を振り上げたその瞬間、江の島の方角から丸い玉のような光り物が飛んできて、首斬り役人の警護の刀は三つに折れ役人どもは目がくらみ、恐れおののきひれ

幕府に訴状を提出したのが良観房を先頭とする他宗の僧侶

だつたのです。九月十二日、幕府によって捕らえられたお祖師様は、龍の口の刑場に連行、いわゆる「頸の座」に据えられたお祖師様日蓮聖人は音吐朗々と南無南無と唱題されていきました。首斬り役人が刀を振り上げたその瞬間、江の島の方角から丸い玉のような光り物が飛んできて、首斬り役人の警護の刀は三つに折れ役人どもは目がくらみ、恐れおののきひれ

幕府に訴状を提出したのが良観房を先頭とする他宗の僧侶

だつたのです。九月十二日、幕府によって捕らえられたお祖師様は、龍の口の刑場に連行、いわゆる「頸の座」に据えられたお祖師様日蓮聖人は音吐朗々と南無南無と唱題されていきました。首斬り役人が刀を振り上げたその瞬間、江の島の方角から丸い玉のような光り物が飛んできて、首斬り役人の警護の刀は三つに折れ役人どもは目がくらみ、恐れおののきひれ

本月の御妙判

正直



月は影を水に浮ぶる。濁れる水には栖むことなし。木の上、草の葉なれども澄める露にはうつる事なれば、かならず、国主ならずとも正直の人の頭には宿り給ふべし。
(四条金吾許御書)

色が濁っているのみならず、混乱し、動揺していて静かでない水のことです。このような水には、いくら空で、こうこうと月が輝いていても月影は宿りません。木の葉や草の葉の露というものはまことに小さいものですが、静かで澄

んでいるから月影がこれに宿るのです。如何に多くの経論を読んで、教理に通じていても、一心に仏を信ずる念のない者は、仏の御力を其の心に宿すというような事は出来ません。仏の御力は、それでは、どのような人の心に宿るものがあるか。如何なる人が仏の御心にかなうかということ、如来寿量品には左の如く説かれてあります。

衆生既二信伏シ、質直ニシテ、意柔順ニ、一心ニ仏ヲ見タテマツラント欲シテ自ヲ身命ヲ惜シマズ

命ヲ惜シマズ
質直とは、名利の念を離れて一切の虚偽を捨てたこと。柔軟とは自我に執着する意のないことであります。身命を惜しまぬほどの心があればどんな労苦も厭う筈はありません。

このように純な心で仏の教えを信ずれば、仏との間に必ず感応道交されて、苦しみの多いこの娑婆に住んでいても何のわずらいもつけずにいられるに違いありません。正直という語は法華経に

平成廿六年度 四大会日程

- 門祖会 二月廿三日(日)
- 歡尊会 五月十一日(日)
- 開導会 七月廿七日(日)
- 高祖会 十一月三日(祝)
- 日序上人御十七回忌法要 六月廿四日(火)
- 第廿四世講有
- 御講尊小山日誠上人御親修

朝参詣強調週間

- 九月二日(月) 元八王子教区
- 三日(火) 八王子東教区
- 四日(水) 八王子西教区
- 五日(木) 八王子南教区
- 六日(金) 八王子北教区

高祖会全国奉納金

高祖会全国奉納金は、宗門の三大奉納金の一つで、信仰の中心である本山宥清寺の護持に活用され、そのほか宗門の基本財産積立金にあてられることになっていきますから志を篤く奉納いたしましょう。奉納切は九月末日です。

東京中央布教区 後期弘通促進大会

十五日、午前十時より本年度後期弘通促進大会が、常住寺を会場に開催されます。本年は第二回目の布教区主催の口唱会が、日程の都合により、この日に併修されることになりましたので、例年よりも三十分早く始まり、午前十時より十一時までを口唱会とするようになりました。十一月より午前中は促進大会のプログラムによつてすすめられます。

第二部に於ては、宗務総長木村日覚上人のご講話「佛立開花運動について」を拝聴することになっておりますので奮つてご参加を!

日序上人御十七回忌報恩(奉公御有志奉納者氏名その四十七) (教区順。敬称略。順不同) 二十五年八月二十一日現在 合計七一九名、一、四四〇口

日も御奉公の日数に候。必ず必ず人はしらぬとて、すこい事して、得したとは思しめすなよ。善因善果、悪因悪果、むくひはのがる、道なし。正直程よきものはなし。正直にさへくれば世の中の不けいきは苦にならぬものに候。却つて信行の秋入どきに候。故に、一に信心二に商法。三に正直所願成就 (仏立要談) と御指南下されてあります。釈尊の金言のまゝを正直に勤むるならば、二世は安楽と御教歌で示されています。